

核兵器禁止条約第1回締約国会議
松井平和首長会議会長（広島市長）スピーチ
オーストリア・ウィーン市
2022年6月21日

尊敬するクメント議長

平和首長会議を代表して発言する機会を与えていただいたことに感謝を申し上げますとともに、この第1回締約国会議の開催に向けて尽力された関係者の皆様に敬意を表します。6月24日に設立から40周年を迎える平和首長会議は、これまで核兵器廃絶に向けそのネットワーク全体で取り組んできました。私たちが今日手にするこの核兵器禁止条約は、核兵器廃絶という崇高な未来図を体現したものです。

ロシアによるウクライナ侵攻では、一般市民に対する無差別攻撃が行われ、核兵器の使用までもが繰り返し示唆される事態に陥っています。この状況を一刻も早く解消することが最優先の課題ではありますが、そのための解消方法は、人類が戦争や核兵器の使用による壊滅的な人道上的影響を過去のものとするために築き上げてきた努力を無にするものであってはなりません。世界を今一度目覚めさせる必要があります。

被爆者の「こんな思いを他の誰にもさせてはならない」という切実な思いは、今痛ましい戦争において被害を受けている人々に対しても共通するものです。その思いに真正面から応えるには、険しい道のりではありますが、核軍縮の進展とその先にある核兵器廃絶しかなく、そのことは今も変わらない真実です。国連を始め、各国や市民社会が一丸となり、崇高な未来図を体現した核兵器禁止条約を実効性のあるものにするための作業に早急に着手する必要があります。そのためにも条約を批准する国、とりわけ非核保有国を増やすことにより、核保有国に核兵器の非人道性と核兵器管理の不確実性に対する認識を深めさせることが急務となっています。

平和首長会議は、そうした取組の一環としてPXビジョン（Vision for Peaceful Transformation to a Sustainable World）の下、各国の為政者や市民に対し、被爆地ヒロシマ・ナガサキを訪れるよう呼び掛けてきており、両市においても、できるだけ多くの方々を迎え入れています。そうした中で、明年G7サミットが広島で開催されることから、核保有国を含むG7の首脳が核兵器のない平和な世界を希求するヒロシマの心をしっかりと受け止めてくれるようお願いしているところです。

御臨席の皆様、今こそ、自国や核保有国及びその同盟国において、人々の核兵器廃絶と世界恒久平和を願う輪を各国の為政者にまでも共に広げて参りましょう。核被害者援助の充実を含め、この条約の壮大な目標が達成されることは、広島市の被爆者の切実な願いでもありますので、その声にも応えていただけるよう、心より期待いたします。